

新ひだか町立病院コラム Vol. 26



インフルエンザ注意報

例年12月頃から流行がみられる「インフルエンザ」ですが、今年は全国的に早い時期からの流行が見られ、当院でもインフルエンザに罹患される方も見られるようになってきました。

* ワクチン接種で予防 *

ワクチンを接種する効果として

- ◆ 感染後に発症する可能性を低減させる効果
- ◆ 発症した場合の重症化防止に有効と報告されています。

当院においてもインフルエンザ予防接種の推進を行っていますので、皆さんでインフルエンザを予防しましょう。

* もしも発熱等を発症した場合 *

発熱外来にてコロナウイルスとインフルエンザの検査を行います。
当日予約も可能ですので、受診前に電話予約をしてから受診してください。

看護部勉強会 ~摂食嚥下機能について~

当院では、看護部が自発的な勉強会を定期的で開催しています。
今回は、摂食嚥下機能を中心に、看護スキルアップを目指し

- ◆ 口腔ケアの必要性、口の中には様々なリスクと因子が潜んでいる。
- ◆ 高齢になれば嚥下機能が落ちていくため、身体の構造と理解が必要
- ◆ 患者さまに寄り添った介助やケアの仕方などを学びました!

摂食・嚥下障害看護 認定看護師 打越 ともこさんが講義してくれました😊➡

院長のつぶやき



院長の小松です。今年もインフルエンザが流行する季節がやって来しました。もう既にインフルエンザ陽性の患者さんも出始め、例年より流行期が早いような気がします。

インフルエンザワクチンの感染対策については、手指消毒のほかに、ワクチン接種があげられます。もともとインフルエンザワクチンは毒性を無くした病原体を体内に入れる「不活化ワクチン」と呼ばれるもので、その病原体に対する抵抗力をつけることにより、感染しにくくなったり、また感染しても症状が軽く済むようになっています。

そのワクチンは今年から大きく変わりますが、変わる点としては、3価から4価に変わるという点です。これはワクチンに入っている病原体の種類が3種類から4種類に増えたということの意味しています。どのように変わったのかというと、今までの3種類の病原体は、A型2種類(H1N1・H3N2)とB型1種類(山形系統とビクトリア系統のどちらか)でした。なぜかというところ今までは「生物学的製剤基準」という法律でワクチンに入れることができる病原体の量が制限されていたためです。しかし、近年、B型の2系統のどちらも流行することが多くなったため、基準が改められ、A型2種類、B型2種類が入ったワクチンに変更となりました。

インフルエンザに感染するリスクを減らすために、また感染しても重症化しないように、そしてあなた自身が感染源にならないためにも、インフルエンザワクチンの接種を検討してみたいかがでしょう。その上で手洗いうがい、咳エチケットの感染対策を心掛けましょう。



作成: 新ひだか町立病院

☆ 町立静内病院 ☎42-0181 (代表)

新ひだか町静内緑町4丁目5-1

☆ 三石国保病院 ☎33-2231 (代表)

新ひだか町三石本町214番地